

嫉妬感情に関する実証的研究の動向

坪田雄二・深田博己

(1990年9月11日受理)

A review of empirical studies on jealousy

Yuji Tsubota and Hiromi Fukada

Bers & Rodin's (1984) classified jealousy into two types, that is, social-relations jealousy and social-comparison jealousy. This article proposed the definitions of the two types of jealousy.

There were a lot of empirical studies on romantic jealousy, so romantic jealousy was considered as a representative example of social-relations jealousy. The results of research on romantic jealousy were reviewed in the following areas: 1) the components and structure of romantic jealousy, 2) the factors determining the intensity of it, 3) the psychological processes mediating it, and 4) the effects of it. It was pointed out that there were few empirical studies in social-comparison jealousy. Finally, future research orientations of social-comparison jealousy were suggested.

Key words: social-relations jealousy, social-comparison jealousy, romantic jealousy

対人関係の善し悪しは、人の幸福に大きな影響を与えるものである。これは、例えば、対人関係の障害によって、犯罪を犯したり、臨牀的に問題となるような抑うつを経験したり、アルコールや薬物依存の状態におちいるといった現象がみられることから明らかである。

このような対人関係に影響を与える要因として、対人コミュニケーション、勢力、役割葛藤、対人感情などの問題が検討されてきている。この中の対人感情(他者に対して抱く感情と対人関係に伴う感情をあわせたもの)に関しては、幸福感やあこがれなどポジティブな感情や、怒り、孤独感、抑うつなどの対人関係に障害となるようなネガティブな感情が、注目され、実証的、組織的な研究が行われ始めている。その中に、嫉妬感情も取り上げられており、岸田(1987)は、「日本の現代は、歴史上かつてなかったほどの嫉妬とはしゃぎの時代となり、われわれはおたがいのあいだで休むひまなく嫉妬に狂い、はしゃいで目立つ競争をしている(P.6)」と述べ、日本における対人関係の鍵概念として嫉妬をあげている。そこで、対人感情の中から嫉妬感情を取り上げ、検討していくこととした。

1. 嫉妬の定義

従来の心理学における嫉妬研究においては、さまざまな定義が用いられており、研究間に定義の不統一がみられる。そこで、これらの定義を整理し、かつ嫉妬や jealousy の辞書的意味も参考にしながら、嫉妬の定義の明確化を試みた。

(1)嫉妬の字義

まず最初に、日本語の嫉妬、英語の jealousy の辞書的意味をあげてみる(表1)。

表1の内容を、嫉妬の生じる状況および嫉妬の主な感情要素の2点についてまとめてみると、次のようになると思われる。まず最初に、嫉妬が生じる状況に関しては、日本語、英語ともに、①自分の愛する者の愛情が他者に向かう状況、愛情をめぐる争いの状況と、②自分より他者のほうが優れている状況、他者(競争相手)が成功や利益を享受している状況の2つに大別される。次に、主な感情要素に関してしてみると、日本語、英語ともに、ねたみ、うらみ、憎しみ、怒り、憤りなどがあげられており、これらの中でも日本語で

表1 嫉妬および JEALOUSY の字義

嫉 妬
<p><日本国語大辞典></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分より優れた人をうらやんだり、ねたんだりする気持ち。 ・自分の愛する人の心が他に向くのをうらみ憎むこと。 ねたむ—うらやましく憎らしく思う、くやしく思う。 <p><広辞苑></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分より優れた人をねたみ、そねむこと。 ・自分の愛する人の愛情が他に向くのをうらみ、にくむこと。 ねたむ—他人の優れた点に引け目を感じたり、人に先を越されてうらやみ憎む、くやしいと思う そねむ—自分より優っているのをうらみ憎む <p><学研国語大辞典></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の愛している人が他へ愛情を移すのを憎んだり、恨めしく思ったりする気持ち。 ・自分より優れた人をうらやみ憎む気持ち。 ねたむ—他人の長所、幸運などに対して、うらやみながら憎む そねむ—他人の長所、幸運をうらやみ憎む <p><辞海></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねたみそねむこと。 ねたむ—他の吉事を見てうらやみ憎む、うらみに思う <p><大言海></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねたみ。そねみ。 ねたむ—他の吉事を見て心にうらやみて、自ら苦しむ。 そねむ—うらやみ極まりて憎む、他の能をねたみて仇せむとす
JEALOUSY
<p><WEBSTER'S THIRD NEW INTERNATIONAL DICTIONARY></p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛情に関する争いや不実 (unfaithfulness) を疑っている心の状態。 ・利益 (advantage) を享受していると思われる人や競争相手に対する敵意。 ・他者の愛情の損失に対する懸念。 <p><LONGMAN DICTIONARY OF CONTEMPORARY ENGLISH></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の持っているものを保ちたいという感情、状態。 ・他者が持っているものを手に入れたいという感情、状態。 ・自分が他者ほどは好かれていないことに対する驚き、怒り。 <p><RANDOM HOUSE DICTIONARY OF THE ENGLISH LANGUAGE></p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛情に関する争い、不実などに対する恐れ、あるいは疑いから生じる精神的不快さ (mental uneasiness) ・競争相手、成功や利益を享受している人、あるいは他者の成功や利益それ自体に対するうらみ、憤り。 <p><THE NEW CENTURY DICTIONARY></p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛情に関する争いに対する恐れや疑いから生じる精神的不快さ。 ・成功した競争相手や自分が切望した利益を享受する人に対するねたみを伴った憤り。 <p><SHORTER OXFORD ENGLISH DICTIONARY></p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒り、激怒、憤り。 ・愛情、あるいは成功、利益などに関する争いに対する疑い、懸念、知識によって生じる心の状態。

は、うらみ、憎しみが強調され、英語では怒りや憤りが強調されているように思われる。

(2)心理学の実証的研究における嫉妬の定義

次に、従来の心理学における嫉妬研究における嫉妬の定義をみてみよう。ところで、White & Mullen (1989) によれば、これまでの嫉妬研究は、恋愛関係における嫉妬 (romantic jealousy) 以外の嫉妬研究は

非常に少なく、わずかに兄弟・姉妹間の嫉妬の問題が兄弟・姉妹関係についての大規模プロジェクトの2次的な結果として報告されているにすぎない。そこで、従来の実証的嫉妬研究の中でも、恋愛関係における嫉妬の研究のみを対象として定義をみていくことにする。それをまとめたのが表2である。

表2の上位3つの定義は、恋人との関係とか愛情と

表2 従来の実証的研究における嫉妬の定義

<ul style="list-style-type: none"> • Clanton & Smith (1977) 恋人を失ってしまうのではないかという恐れや、恋人とライバルとの関係に対する不安といった不快感。 (Stewart & Beatty, 1985; Pine & Aronson, 1983にも引用される) • Mathes & Severa (1981) ライバルの出現によって、愛情を失いそうな、あるいは実際に失ってしまったことによって生じるネガティブな感情。 • White (1981) 自尊心や恋人との関係が脅威を受けることによって生じる、思考、感情、行動の複合体。ただし、その脅威が恋人とライバルの恋愛関係の認知によって生じた場合。 (Buunk, 1982; Greenberg & Pyszczynski, 1985; Mathes, Adams & Davies, 1985; Schmitt, 1988にも引用される) • Bryson (1977) 望まれた関係が失わせられてしまうのではないかという疑い。 • Shettel-Neuber, Bryson & Young (1978) 望ましい感情関係に対する(実際の、あるいは想像上の)他者の脅威に対する反応。 • Bringle, Roach, Andler & Enenbeck (1979) 多様な社会状況における、現在の利点(asset)の損失、想像上の損失 損失の可能性に対する情緒的な反応。 • Hansen (1985) 価値ある関係を脅かす恐れに対する防衛的反応。 • Smith, Kim & Parrott (1988) 人がすでに他者と結んでいる関係を失ってしまうのではないかという可能性に根ざしたもの。

いった恋愛関係のみを想定したものであるが、残りのものは望ましい関係とか価値ある関係といったように、恋愛関係のみを想定したのではないという違いがあるものの、嫉妬が生じる基本的な状況には違いはないようである。その基本的な状況とは、まず最初に、自分とある特定の他者との間に望ましい、あるいは価値ある関係が存在し、その関係を脅かす(現実の、あるいは想像上の)第三者が出現することによって生じるという状況である。このような基本的な状況は、恋愛関係における嫉妬のみに限らず、兄弟・姉妹間における嫉妬に関してもあてはまるように思われる。また、嫉妬の主な感情要素に関しては①嫉妬の字義のところでもみられたような具体的感情要素については述べられておらず、単に、反応であるとか、ネガティブな感情としてあげられているものが多い。これは、嫉妬感情を複合感情ととらえ、どのような感情要素が嫉妬を構成しているのかといった嫉妬感情の構造の問題が研究課題となっていることが原因であるように思われる。

このように、心理学では、恋愛関係における嫉妬が主に検討されてきたため、既存の関係(例、恋人との恋愛関係)が第三者(例、恋敵)によって脅かされる状況、すなわち、嫉妬の字義で述べた①の状況ばかりが検討され、嫉妬の字義で述べた②の状況「他者のほうが優れている状況」はほとんど検討されていない(こ

のような状況は嫉妬としてではなく羨望と考えられている)。

ところが、最近、②の状況も含めて、嫉妬ととらえ検討していくという考え方が、Bers & Rodin (1984)によって提案され、検討され始めている。彼らは、心理学では区別されている嫉妬と羨望が、一般には同じ意味で使われていること、そして、嫉妬と関連した感情、認知、行動と羨望のそれらとに明らかな違いはないことなどから、①、②の状況ともに嫉妬の状況ととらえ、前者を社会的関係における嫉妬(social-relations jealousy)と、後者を社会的比較によって生じる嫉妬(social comparison jealousy)に分類するという考え方を述べている。

このような Bers & Rodin (1984)の提案や嫉妬の字義などを考えてみると、「自分よりも他者が優れている状況」についても、嫉妬の状況と考える必要があるように思われる。

ところが、彼らの社会的比較によって生じる嫉妬の定義は、「他者が成功を享受し、その結果として、その他者の優越や所有物が不満や腹立ちを生じさせるような時に生じる感情、思考、行動」であり、社会的関係における嫉妬については、明確な定義は述べられていない。このように、社会的関係における嫉妬の明確な定義が述べられていないことや、感情、思考、行動の

すべてを社会的比較によって生じる嫉妬と考えていること、そして嫉妬の生じる状況を不満や腹立ちが生じる状況というような他の感情の喚起で定義していることなど、彼らの定義には多くの問題があると考えられる。そこで、嫉妬を社会的関係における嫉妬と社会的比較によって生じる嫉妬に分類して考えていくという立場にたつて、両タイプの嫉妬の定義を整理していくことにした。

まず、社会的関係における嫉妬に関しては、従来の研究で検討されてきた嫉妬のタイプであり、上述の基本的な状況を考慮すると、「特定の他者との既存の望ましい関係が、第三者によって脅かされる時に生じる不快な感情」と定義されよう。ただし、既存の関係が第三者によって脅かされそうだと認知した場合も広義の嫉妬と考えることができると思われる。また、このタイプの嫉妬には、恋愛関係における嫉妬や兄弟・姉妹間における嫉妬、教師をめぐる生徒間の嫉妬など多くのものがある。つまり、既存の望ましい関係が、恋愛関係、兄弟・姉妹の関係、教師と生徒の関係の場合は、それぞれ恋愛関係における嫉妬、兄弟・姉妹間における嫉妬、教師をめぐる生徒間の嫉妬となる。

一方、社会的比較によって生じる嫉妬の状況に関しては、基本的には「自分より他者の方が優れている状況」であるが、社会的比較の研究 (Festinger, 1954) でも言われているように、単に他者が自分より優れているだけでは比較は生じないであろう。そこには当然、他の条件が必要となってくる。そこで、日常的な嫉妬の用法などを考慮して、「何らかの次元(所有物、業績、地位など)において、自分のほうが優位か同等である、あるいはそうあるべきだと思っているにもかかわらず、実際には他者が優位に立っている時に生じる不快な感情」が社会的比較によって生じる嫉妬であると定義する。ただし、社会的関係における嫉妬でも述べたように、近い将来他者が優位に立ちそうだと認知した場合も、広い意味でのこのタイプの嫉妬と考えられよう。なお、両タイプの嫉妬の主な感情要素に関しては、それ自体が、実証的研究において検討課題となっていることもあり、単に不快な感情としておく。それでは、次に、それぞれの嫉妬の実証的研究を整理してみよう。

2. 社会的関係における嫉妬の研究

先ほども述べたように、このタイプの嫉妬は主に、恋愛関係における嫉妬が検討されてきている。そこでこのタイプの嫉妬の代表として恋愛関係における嫉妬の実証的研究を整理してみる。

(1)嫉妬感情の構造

嫉妬がどのような基本的な感情要素から構成されているのかという嫉妬の構造の問題は、古くから検討され、多くの臨床家や理論家 (Freud, 1955; Gesell, 1906; Arnold, 1960; Spielman, 1971) が論じてきている課題である。この問題に関する実証的研究は、嫉妬を感じている人、あるいは嫉妬を感じる状況を呈示された人に、その時の多くの感情要素の強さを評定させ、その結果を因子分析やクラスター分析によって分類するという手法を用いたものが多い (Salovey & Rodin, 1986; Mathes, Phillips, Skowran & Dick, 1982; Tipton, Benedictson, Mahoney & Hartnett, 1978)。これらの研究からは、怒り、悲しみ・抑うつ、恐怖・不安、羨望、性的喚起、罪などが嫉妬の構造としてあげられている。

また、Sharpsteen & Schmalz (1988) は、被験者に過去に自分が嫉妬を感じた状況をくわしく書かせ、どのような感情が多くみられるか検討したところ、全状況の約75%に怒りが、20~30%に恐怖と悲しみが含まれていたことを報告している。そして、Shaver, Schwartz, Kirson & O'Connor (1987) は、被験者に135の感情語を類似-非類似の観点から分類させ、クラスター分析を行ったところ、嫉妬は6つの基本的感情(愛情、歓喜、驚き、怒り、悲しみ、恐怖)の中で、怒りにもっとも近いものとなったことを報告している。

以上のように、研究によって若干の違いはあるものの、実証的研究の結果から言えば、基本的には恋愛関係における嫉妬は、怒り、不安・恐怖、悲しみの感情が主体であり、それに憤りなどの羨望の感情、欲望、熱情などの性的喚起、恥、後悔などの罪の感情が付随したものようである。

(2)嫉妬の強さに影響を与える要因

どのような条件が嫉妬を喚起させやすいのかに関して、多くの研究が行われている。

1) 嫉妬を喚起させた原因の認知

まず、White (1981a) は、自分の恋人が他の誰かに夢中になった原因の認知と嫉妬との関連を検討した。彼は、予備調査から、a) 現在の関係への不満、b) 性的活動の多様性への願望、c) ライバルの性的特性以外の特性に対する魅力、d) より深い、安定した関係への願望の4つの原因に分類し、重回帰分析の結果、a) が嫉妬ともっとも関連が強く、c) は女性の場合にのみ関連がみられたこと、そして、d) は男女とも嫉妬とは関係していなかったことを明らかにしている。また、Buunk (1984) は、配偶者が現実婚外恋愛をしている(していた)者を被験者とし、同様の研究を実施した。その結果、男性は、妻が性的活動の多様性を望んでいると知覚した場合に嫉妬が強く、女性は、

夫が自分に満足していないと信じ込んでいる時に最も嫉妬が強いことをみいだしている。

2) 嫉妬状況において行われる比較

White (1981 b) は、嫉妬状況で自分とライバルをどのような側面で比較したかを調査し、身体的・性的魅力、パーソナリティ、恋人との類似性、職業的地位、恋人との長期的な関係を形成しようとする願望、恋人の考えなどに関する感受性の6つの側面を明らかにした。そして、ライバルと恋人が類似していると感じている者は嫉妬を感じやすいことをみいだしている。また、Buunk, Bringle & Arends (1984) や Schmitt (1988) なども嫉妬状況での比較について検討している。

その他、恋人との関係に代わる関係がみいだせない者は嫉妬をより感じやすい (White, 1981 b) ことや、パーソナリティ、恋人との関係への満足感や依存性、恋人との勢力関係、愛情などと嫉妬との関連も検討されている。

(3) 嫉妬の生起プロセス

White (1981 c) は、過去の臨床家や理論家の記述を参考に嫉妬のモデルを提案し、この中で嫉妬の原因として、自尊心の損失と恋人との関係の断絶をあげている。この White (1981) のモデルを検討した Mathes, Adams & Davies (1985) は、恋人の死、恋人の転勤などの恋人との別離の状況と嫉妬状況を用い、上記の2つの原因と嫉妬を測定し、状況間の比較を行った。そして、2つの原因の状況間の変化と嫉妬のそれとが類似していることから、これらが嫉妬の生起プロセスに関連していることを示唆した。また、深田・坪田 (1989) は、恋人からの拒否の程度を変化させた5場面の嫉妬状況を用いて検討を行い、同様の結果を得ている。ただし、両研究とも2つの原因を直接操作したものでないので、これらが嫉妬の生起に関連することは示されたが、嫉妬の原因であるとは言い切れない。以上のように、嫉妬の生起プロセスに関する研究は始められたばかりで、不十分なところが残されており、今後の検討が待たれる領域である。

(4) 嫉妬の効果・影響

この領域の研究は、嫉妬を感じた者の対処を収集、分類したものが多く、Bryson (1976) は、「今の気持ちを親しい友人に話したい」といった社会的支持の要求、「ライバルと直接対決する」とか「恋人にその状況の説明してもらいたい」といった対決、「他の人との関係を持ち始める」「他人の前で恋人の悪口をいう」といった反動的な報復の3つの対処法を明らかにしている。また、Francis (1977) は、15のカップルの面接を通して、否認、恋人の監視、競争、関係の再交渉などの対

処法を示した。その他、Sharpsteen & Schmalz (1988) は過去の嫉妬状況における対処法を分類し、否認、逃避の方略をみいだしている。

3. 社会的比較によって生じる嫉妬

次に、社会的比較によって生じる嫉妬に関してであるが、このような何らかの次元で自分より他者が優位に立っている時に生じる嫉妬に関して検討され始めたのは1984年以降であるため、研究が非常に少ない。そこで、これまでの研究からどの程度のことが明らかにされているのかをみていくことにする。

まず、Bers & Rodin (1984) は、6歳から11歳の子供を被験者として、年齢、性、I Q、自尊心、出生順位やきょうだいの性などの家族構成の変数、そして失敗した次元の重要性といった変数が、自発的な社会的比較の頻度、嫉妬感情や対処行動、将来の動機づけにどのような影響を与えるのかを検討した。その結果、次のようなことを明らかにした。①自発的な比較において、年齢の主効果、年齢と次元の重要性の交互作用効果がみられ、年齢が高い者は自発的な比較が多い、そして、年齢の低い者は次元の重要性には影響されないが、年齢の高い者では重要な次元でより多くの自発的な比較がなされる。②嫉妬感情において、年齢、自尊心、自発的な比較、それぞれの主効果と年齢と次元の重要性の交互作用効果がみられ、年齢の低い者、自尊心の低い者、自発的な比較を多く行う者は嫉妬が強い、年齢の低い者は次元の重要性には影響されないが、年齢の高い者では重要な次元で嫉妬が強い。

Salovey & Rodin (1986) は、社会的比較によって生じる嫉妬と恋愛関係における嫉妬の違いを吟味している。彼らは53の嫉妬状況を収集し、それらの状況における嫉妬の強さをもとにMDSを行い、「恋愛的一社会的比較」と「公平—不公平」という2つの次元を抽出した。そして、社会的比較によって生じる嫉妬と恋愛関係における嫉妬の典型的な場面を用い、それらの状況での感情の強さや他者(ライバル)に対する認知を測定した。その結果、両状況間で嫉妬それ自体の強さに違いはないものの、恋愛関係における嫉妬の方が、怒りや抑うつ感情が強く、立派でなく自信がなく魅力的でないといった評価がみられたことを報告している。

また、坪田 (1990) は、社会的比較によって生じる嫉妬と、同様な状況で生じる羨望との比較を行ったところ、両感情の構造的な差異はみいだすことはできなかったが、怒りや憎らしさの感情が嫉妬においては強いことを報告している。

以上のように、社会的比較によって生じる嫉妬に関する研究は、始められたばかりであり、未検討の研究領域が多く残されている。今後は、社会的関係における嫉妬の研究で検討されてきたような、①嫉妬感情の構造の問題、②他者が優位に至った原因の認知や他者との関係の要因などの影響に関する嫉妬の規定因の問題、③嫉妬の生起プロセスの問題、そして④嫉妬の効果・影響の問題などの検討を進めながら、社会的比較によって生じる嫉妬に関する組織的な研究を行っていく必要があると思われる。

4. 要約

嫉妬の字義などの検討から、嫉妬の研究を、従来検討されてきた恋愛関係における嫉妬などの社会的関係における嫉妬と社会的比較によって生じる嫉妬に分類するという Bers & Rodin (1984) の提案に賛同し、それぞれの嫉妬の定義を明確にした。そして、それぞれの嫉妬に関する実証的研究を整理し、社会的比較によって生じる嫉妬に関する研究の立ち遅れを指摘し、今後の研究課題を示唆した。

引用文献

- Arnold, M.B. 1960 *Emotion and personality*. New York: Columbia University Press.
- Bers, S.A., & Rodin, J. 1984 Social-comparison jealousy: A developmental and motivational study. *Journal of Personality and Social Psychology*, **47**, 766-779.
- Bringle, R.G., Roach, S., Andler, C., & Evenbeck, S. 1979 Measuring the intensity of the jealous reactions. *Journal Supplement Abstract Service*.
- Bryson, J.B. 1976 The nature of sexual jealousy: A exploratory paper. Paper presented at the annual meeting of the American Psychological Association, Washington, DC. (Cited in White, G. L., & Mullen, P.E. 1989 *Jealousy: Theory, research, and clinical strategies*. New York: The Guilford Press.)
- Bryson, J.B. 1977 *The situational determinants of the expression of jealousy*. Paper presented at the annual meeting of the American Psychological Association, San Francisco. (Cited in Salovey, P., & Rodin, J. 1984 Some antecedents and consequence of social-comparison jealousy. *Journal of Personality and Social Psychology*, **47**, 780-792.)
- Buunk, B. 1982 Anticipated sexual jealousy: Its relationship to self-esteem, dependency, and reciprocity. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **8**, 310-316.
- Buunk, B. 1984 Jealousy as related to attributions for the partner's behavior. *Social Psychology Quarterly*, **47**, 107-112.
- Buunk, B., Bringle, R.G., & Arends, H. 1984 *Jealousy — response to threatened self-concept?* Paper presented at the International Conference on Self and Identity, Cardiff, Wales. (Cited in White, G. L., & Mullen, P.E. 1989 *Jealousy: Theory, research, and clinical strategies*. New York: The Guilford Press.)
- Clanton, G., & Smith, L.G. 1977 *Jealousy*. New Jersey: Prentice Hall.
- Emery, H.G. & Brewster, K.G. (Eds.) 1952 *The new century dictionary*. New York: Appleton-Century-Crofts INC.
- Festinger, L. A theory of social comparison processes. *Human Relations*, **7**, 117-140.
- Francis, J.L. 1977 Toward the management of heterosexual jealousy. *Journal of Marriage and Family Counseling*, **10**, 61-69.
- Freud, S. 1955 Some neurotic mechanisms in jealousy, paranoia and homosexuality. In J.strachey (ED. and Trans.), *The standard edition of the complete psychological work of Sigmund Freud*. London: Hogarth Press. (Original work published 1922)
- 深田博己・坪田雄二 1989 恋愛関係における嫉妬の研究 広島大学教育学部紀要 第1部, **38**, 207-211.
- Gesell, A. 1906 Jealousy. *American Journal of Psychology*, **17**, 437-496.
- Gove, P.B. (Ed. in chief) 1961 *Webster's third new international dictionary of the English language*. Springfield, Mass.: G. & C.Merriam Company.
- Greenberg, J. & Pyszczynski, T. 1985 Proneness to romantic jealousy and responses to jealousy in others. *Journal of Personality*, **53**, 468-479.
- Hansen, G.L. 1985 Perceived threats and marital jealousy. *Social Psychology Quarterly*, **48**, 262-268.
- 金田一春彦・池田弥三郎(編) 1988 学研国語大辞典第二版 学習研究社.
- 金田一京助(編) 1952 辞海 三省堂.
- 岸田 秀 1987 嫉妬の時代 飛鳥新社.
- Mathes, E.W., & Severa, N. 1981 Jealousy, romantic

- love, and liking: Theoretical considerations and preliminary scale development. *Psychological Reports*, **49**, 23-31.
- Mathes, E.W., Phillips, J.T., Skowran, J., & Dick, W. E. 1982 Behavioral correlates of the interpersonal jealousy scale. *Educational and Psychological Measurement*, **42**, 1227-1230.
- Mathes, E.W., Adams, H.E., & Davies, R.M. 1985 Jealousy: Loss of relationship rewards, loss of self-esteem, depression, anxiety, and anger. *Journal of Personality and Social Psychology*, **48**, 1552-1561.
- 日本大辞典刊行会 (編) 1972 日本国語大辞典 小学館.
- Onions, C.T. (Ed.) 1973 *The shorter Oxford English dictionary on the historical principles*. London: Txford University Press.
- 大槻文彦 (編) 1956 新訂大言海 富山房.
- Pine, A., & Aronson, E. 1983 Antecedents, correlates and consequences of sexual jealousy. *Journal of Personality*, **51**, 108-136.
- Procter, P. (Ed. in chief) 1978 *Longman dictionary of contemporary English*. Essex: Longman Group Ltd.
- Salovey, P., & Rodin, J. 1984 Some antecedents and consequence of social-comparison jealousy. *Journal of Personality and Social Psychology*, **47**, 780-792.
- Salovey, P., & Rodin, J. 1986 The differentiation of social-comparison jealousy and romantic jealousy. *Journal of Personality and Social Psychology*, **50**, 1100-1112.
- Schmitt, B.H. 1988 Social comparison in romantic jealousy. *Personality and Social Psychology*, **14**, 374-387.
- Sharpsteen, D.J., & Schmalz, C.M. 1988 *Romantic jealousy as a blended emotion*. Unpublished manuscript, University of Denver. (Cited in White, G.L., & Mullen, P.E. 1989 *Jealousy: Theory, research, and clinical strategies*. New York: The Guilford Press.)
- Shaver, P., Schwartz, J., Kirson, D., & O'Connor, C. 1987 Emotion knowledge: Further exploration of a prototype approach. *Journal of Personality and Social Psychology*, **52**, 1061-1086.
- Shettel-Neuber, J., Bryson, J.B., & Young, L.E. 1978 Physical attractiveness of the "other person" and jealousy. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **4**, 612-615.
- 新村 出 (編) 1983 広辞苑第3版 岩波書店.
- Smith, R.H., Kim, S.H., & Parrott, W.G. 1988 Envy and jealousy: Semantic problems and experiential distinctions. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **14**, 401-409.
- Speilman, P.M. 1971 Envy and jealousy: An attempt at clarification. *Psychoanalytic Quarterly*, **40**, 59-82.
- Stein, J. (Ed. in chief) 1966 *The random house dictionary of the English language*. New York: Random House.
- Stewart, R.A., & Beatty, M.J. 1985 Jealousy and self-esteem. *Perceptual and Motor Skills*, **60**, 153-154.
- Tipton, R.M., Benedictson, C.S., Mahoney, J., & Hartnett, J. 1978 Development of a scale for measurement of jealousy. *Psychological Reports*, **42**, 1217-1218.
- 坪田雄二 1990 二者関係における嫉妬と羨望の比較～両感情の生起因と感情構造の観点から～ 広島大学大学院教育学研究科博士課程論文集, **16**, 76-80.
- White, G.L. 1981a Jealousy and partner's perceived motives for attraction to a rival. *Social Psychology Quarterly*, **44**, 24-30.
- White, G.L. 1981b *Social comparison, motive attribution, alternatives assesment and coping with jealousy*. Paper presented at the annual meeting of the American Psychological Association, Anaheim, CA. (Cited in White, B.L., & Mullen, P.E. 1989 *Jealousy: Theory, research, and clinical strategies*. New York: The Guilford Press.)
- White, G.L. 1981c A model of romantic jealousy. *Motivation and Emotion*, **5**, 295-310.
- White, G.L., & Mullen, P.E. 1989 *Jealousy: Theory, research, and clinical strategies*. New York: The Guilford Press.